

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100453		
法人名	株式会社コスモライン		
事業所名	グループホーム和の杜		
所在地	北海道釧路市星が浦大通3丁目2-14		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100453&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年に開所し今年5月に102歳の方を看取り、計8名の利用者の方々を看取らせて頂き、日々のケアを通して学ぶ事の大きさを実感し、命の尊さ・生きる力の強さを肌で感じ、介護の奥深さを、改めて知ることができ、その後のケアに活かしている。住みやすい環境作りを始め、衣・食・排を重視し、その日その日を大切に個々に合わせ、目配り、気配りに努めている。利用者・職員がありのままの姿で向き合う事で、より良い関係作りができています。職員は仲間を大切にチームとしての自覚をもち一体となって、ハウレンソウを重視するように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市道に面しているが、交通量が少なく静かな環境である。事業所全体に陽ざしが入り明るく、清潔である。ホーム長、管理者と職員間の関係も良く、互いの意思疎通を図りながら、利用者本位のケアを目指している。職員は利用者の笑顔を大切に働いている。ホーム長と管理者は、利用者の楽しみである食事と衛生面に気遣い、健康管理と事故防止の大切さを周知し、職員全員が利用者の人格を尊重しながら、本人が望む生活や人生を支えている。ホーム長が高齢者介護に長く携わっている経験を活かし、自ら後進の指導にあたり、それが知識、技術等の良質なチームケアに結び付き、看取りにつながっている。利用者が安心して穏やかに生活できる支援に取り組んでいる。重度化の指針も全職員で共有し、本人、家族、医療関係者と話し合いを重ねながら看取りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し職員が意識するように努め、馴染みの環境の中で仲良く助け合い、明るく生き甲斐のある暮らしが出来る様努めている。	事業所理念を掲示し、日々業務の中で確認し話し合いながら、理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域に住宅街少なく、事業所が多いが、施設の事を理解して貰い冬季間の除雪などの協力をえている。	事務所等が多く、住宅が少ない環境であるが、町内会に入会し、近隣には事業所の理解者も得て、冬季間の除雪協力や、事業所行事には地域住人にチラシを配る等して交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に住宅街少なく、事業所が多いが町内会に参加し施設の事を理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H22年度4回実施し様々な状況を報告し、気になっている事など意見を聞き話し合い、サービス向上に努めている。来年度は年6回に増やしていきたい。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、介護支援専門員、町内会長、多数の家族等の出席を得て開催している。会議では運営についての課題、利用者の現状等を報告し、意見やアドバイスを受けている。終末期の家族からは利用者の状態説明があり、そこでの意見を活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に一度定期的に開催し、参加者の意見等をサービス向上に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告など必要に応じて連絡を取り働き掛けている。	市の担当課には、電話だけでなく出向いて相談し、情報を得ている。また、運営推進会議や外部評価の結果の報告など、連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努める」と心して受けとめている。	身体拘束マニュアルを作成し、会議の中で話し合い、禁止の対象、行為等を正しく理解するように努め、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の鍵は、夜間のみ施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相手の立場を尊重し、自分の身に置きかえたらと会議をし、マニュアルの読み返しなど皆で話し合い声掛け等も気をつけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学んではいるが、活用する対象の方がいなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かい事についても説明し、不安や疑問点があればさらに説明し、理解・納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に困った事や気になる事など無いからこちらから尋ねる、又気軽に話せる関係作りを行い意見がある際は聴き直ぐに反映している。	苦情窓口を開示している。運営推進会議には多くの家族が出席し、意見を得ている。家族の来訪時にはコミュニケーションを大切に、困りごとや気になること等を尋ねるようにしている。意見があれば、速やかに会議を開き、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等にて情報・意見交換を行うと共に、日々個々に意見がある際は聞く機会を多くも受け、反映させている。	会議等で職員は意見交換している。日常業務の中でも、意見や提案があれば、その都度相談しながら速やかに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の仕事への緊張感を軽減できる時間を大切にしながら、生き生きと働けるように又常に向上心を持って働くように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や日々のケアを通して介護技術の指導、職員のケア内容に目配りし、気が付いた時はその都度働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームとの交換研修を行い受け入れたり、外部研修に参加し交流を行い、情報交換など行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望相談時より何度が会い顔を覚えて頂き、環境の変わった不安・知らない人への不安において安心して貰えるよう慎重に働きかけ、信頼して頂ける様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを選択された家族の気持ちを十分受けとめ、良く聴き、気が付いた事を遠慮なく話せる雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている状況見極め様々なサービスの相談につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	知恵・知識等を含め場面場面で学びあい、助け合い、感情を共感し合える関係作りにつとめている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者あつての家族、家族あつての利用者の関係を大切にして、より深く理解し合える関係作りにつとめている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活暦等を詳細に聞き取り、安心して暮らせるよう配慮している。友人の訪問・昔馴染みの場所へのドライブ等関係が切れないうつとめている。	家族の許可を得て、犬や庭の花を見に自宅に出向いたり、友人の訪問、馴染みの場所へのドライブなど、関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重してその人らしさを生かし、心身の状態なども考慮し楽しく過ごせるように見守りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移動された利用者に継続して面会いく、看取りケースの法要に参列したり、家族の来訪により普話をしたり関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の今までの生活歴を把握し、本人希望や意向に添えるようつとめている。又困難なケースは都度対応している。	個々の生活歴を把握し、利用者本人の希望や意向に沿えるように努めている。表出困難な人には表情や仕草、態度などで思いを汲み取り、本人本位にその都度対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、家族やケアマネージャーより情報をもたらしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケースの過ごし方、心身の状態、出来る事・出来ない事の把握をして情報の共有化につとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態に合わせ、本人や家族と話し合いをしてより良い生活が送れる様介護計画を作成している。又重度のケースは医師や看護師の助言を聴き介護計画を作成している。	担当者が身体状態に合わせ家族や本人と話し合い、希望を聞きながら、よりよい生活を送れるように介護支援専門員と話し合い 介護計画を作成している。重度の利用者については、医師や看護師のアドバイスを聞きなが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状態、ケアの内容などを細かく個々に記入し情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、その時々に対応に応じて柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同系列のホームへ訪問や、消防訓練の参加などしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅支援支援診療所と医療連携体制を結んでいるので、定期的に医師の往診があり適切な医療が受けられるようにしている。	協力医である診療所の医師による往診と訪問看護師の訪問が月2回あり、適切な医療が受けられるように支援をしている。また、従来のかかりつけ医に受診を受ける利用者にも支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を契約しており、訪問時は常に日々の生活の様子を伝え、指示や助言があった時は実行し経過を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医との連携により、入院時は速やかにおこなえている。又、入院中も面会し症状が緩和されホームでのケアが可能になったと医師の判断時は早期退院しホームで安心して生活できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状態により、早期に看取り介護について家族と相談話し合いを十分におこない、往診医とも話し合い同意のもとに方針を共有している。	重度化の指針を全職員で共有している。状態により早期に本人、家族、医療関係者と話し合いを重ねながら、方針を共有し、チーム支援に取り組み、看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故などを想定した訓練をおこなっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練を年何回か行い、事態に戸惑わないようにしている。地域の方々にチラシを配り協力依頼をしている。緊急連絡網の活用もしている。	年2回避難訓練を行っている。災害マニュアルや防災連絡網を作成したり、防火管理者研修に参加している。スプリンクラーや火災通報設置の工事をしている。地域の住民にも協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないよう、言葉掛けや居室の出入り・開閉など配慮している。個人情報等も会議等で話し合っている。	トイレ誘導は他者に気付かれないよう、プライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている。居室の出入りにも配慮をしている。記録は事務所で書いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを察し、希望などが言いやすい環境作りをおこなっている。又選べる状況作りもおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切に個々の介護の状態なども含め不安の無いよう過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に着やすく動きやすいおしゃれが出来る様支援している。美容は散髪ボランティアが来てくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会などは本人の好みの物を聴き一緒に食材を切ったり、皆で食事を楽しんでいる。又調理方法も個々にしている。	食事の準備や後片付け、買い物など、利用者ができることを活かしながら職員と一緒にしている。調理方法や食器類、盛り付けにも配慮している。季節行事の食事や誕生日等、楽しみごとの支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や器の工夫をし、水分も飲みやすい物に変える等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の洗浄が困難なケースが多く、義歯洗浄は職員が対応し、口腔内は個別に付き添ってしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせた排泄パターンを記録し、昼はトイレ介助、夜は尿取パット使用しながらトイレ誘導して気持ちよい排泄が出来るようにしている。	利用者個々に排泄を記録し、状態に合わせて声かけ誘導を行い、介助し、昼間はリハビリパンツか布パンツ、夜は尿取りパットを使用し、自立の支援をしている。大方の利用者の状態が改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便の状態を記録し、水分摂取・運動・食事に気をつけている。又便秘症の方には、往診時医師に相談し下剤服用すときもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の身体的状態を考慮しながら、その時々で入浴を楽しめる様に支援している。又重度のケースは職員2名対応で危険の無いようにしている。	個々の身体状態によって、清拭や足浴、シャワー浴等で対応をしている。入浴時は体全体をマッサージをするように心がけて、入浴を楽しめるようにしている。入浴が困難な人には職員2名で対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態・状況に応じて、昼寝をしたり、横になり休息が取れる様えんしている。又夜間は安心して眠れるよう職員も言葉掛け等気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にを保管し、内容も個別にファイルしている。職員は良く理解して皆で症状の変化等の確認に努めている。又服薬変更時も同様である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「やりたいという気持ちを尊重して」出来る事を楽しみながら行ってもらよう支援している。又個々の趣味も体調に合わせて出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って外出・ドライブ・買い物・自宅へ行くなどおこなっている。また重度のケースはペランダを活用し戸外行事をしている。	個々の希望に沿って、ショッピングセンターでの買い物、ドライブ、病院帰りの食事や喫茶店に寄る等、楽しみながら外出できるように支援をしている。外出困難な利用者の楽しみとして、テラスで食事会を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事への理解が困難になってきているケースには外出の際に所持するよう対応し、困難で無いケースについては、家族と話し常時所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにいる家族からの電話や手紙への返事や、友人に宛て手紙を書いたり電話をしたり出来る様に支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や鉢植え等を置き季節にちなんだ飾りつけを行い、壁には利用者の写真を飾ることも。寒さ対策として床暖房の設置を22年11月におこなった。	共用の居間には全体に陽ざしが入り、明るく清潔である。空気清浄機、炭を各所に置く等、不快な臭いの除去に努めている。鉢植え、季節の花を置き、壁には季節の飾りものや利用者の作品等で居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々状況に応じて配慮し廊下の一部に植え込みの椅子があり、気の合った同士で過ごせる、ソファーを利用しての1人の時間作りなど工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時個々の状態、その人が好まれたもの、使い慣れたものに気持ちの安らぎがあるので持って来てもらっている。	各居室には採光が十分入り掃除も行き届き、心地よい居室となっている。馴染みの家具や使い慣れたテレビ、家族や思い出の写真を飾り、本人が居心地よく過ごせるように支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かして安全に生活出来る様に、手摺りの配置や各居室に表札、トイレへの案内張り紙等くふうをしている。			